

(50) 寺島(てらしま) 鉱山跡－追記

本鉱山の鉱山図などを入手したこと。また、GPSのガーミンでの経路ログを獲得する目的も持って現地を10年ぶりに再訪した。が、再訪は連続して数回にわたった。従って、獲得した経路ログはそれらを書き重ねたものとなっている。結果として、岩友と一緒に新たに多数の坑口跡、そして1カ所で露頭鉱脈を見つけた。本稿は既報に追加する内容である。従って、既報に目を通しておくのが良い。

2020年11月、12月



図1 461号のA点で西荒川ダム方向へと北上して行く。B点は二叉路である。北西の左方向へと進む。なを、この二叉路を北の右側方向へ進んでいくと名水の尚仁沢方向となる。の赤輪が鉱山跡である。

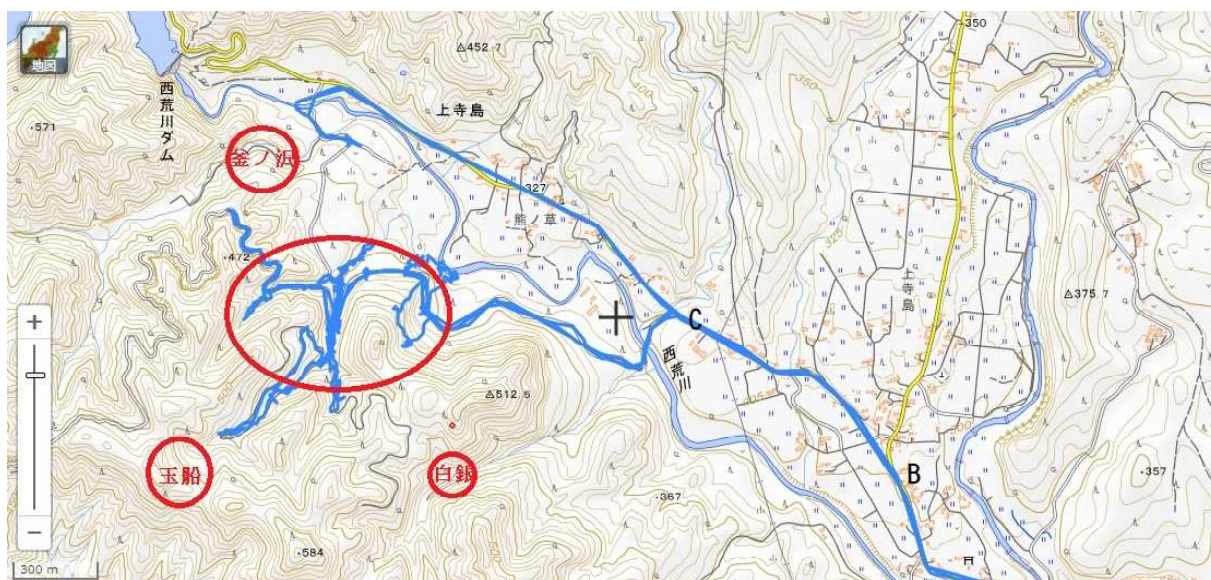


図2 図1の部分拡大図である。何回かの現地訪問時の経路ログを重ね書きしていることに留意すること。C点の所で、目前に迫った短い橋の手前で左折し、林道に入っていく。林道は現地の先まで平坦で幅が広く確りしている。4つの赤輪の中央が現地。鉱山跡に車を横付けできるという実に結構な所である。なを、上の輪は「釜ノ沢鉱山跡」、下左の輪は「玉船鉱山跡」、下右の輪は「白銀鉱山跡」である。全て本鉱山探査記で紹介済みの鉱山跡である。日程を確り組めば、1日で複数の鉱山跡を巡ることができるであろう。



図3 図2の部分拡大図。林道のP点が駐車場所。文字DからJの付近で多くの坑口跡を確認した。茶丸が坑口跡。D点付近には沢と林道の間に広いプラトーがある。鉱山施設跡と思われる。D点付近の坑口付近の沢床に沢を横切るような鉱石は薄いが露頭鉱脈を確認。それを茶線分で示している。ここでなら確実に銅鉱石を採取できよう。なを、何度にも渡る探査による経路ログを重ね書きしている。結果として「無駄」な経路ログもあることに留意すること。

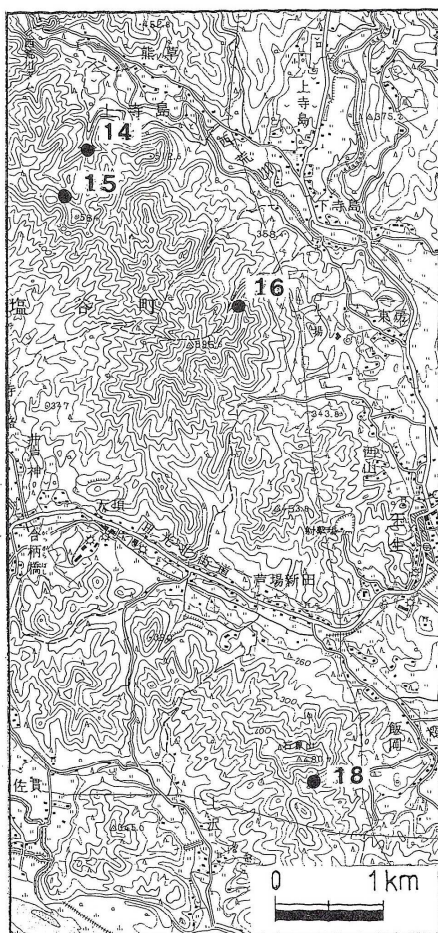


図4 参考文献（2）より複写掲載。番号14が「寺島鉱山」

図14-1 寺島(14), 玉船(15), 万珠(16), 石尊山(18)
鉱山位置図
国土地理院 5万分の1 矢板(S62)

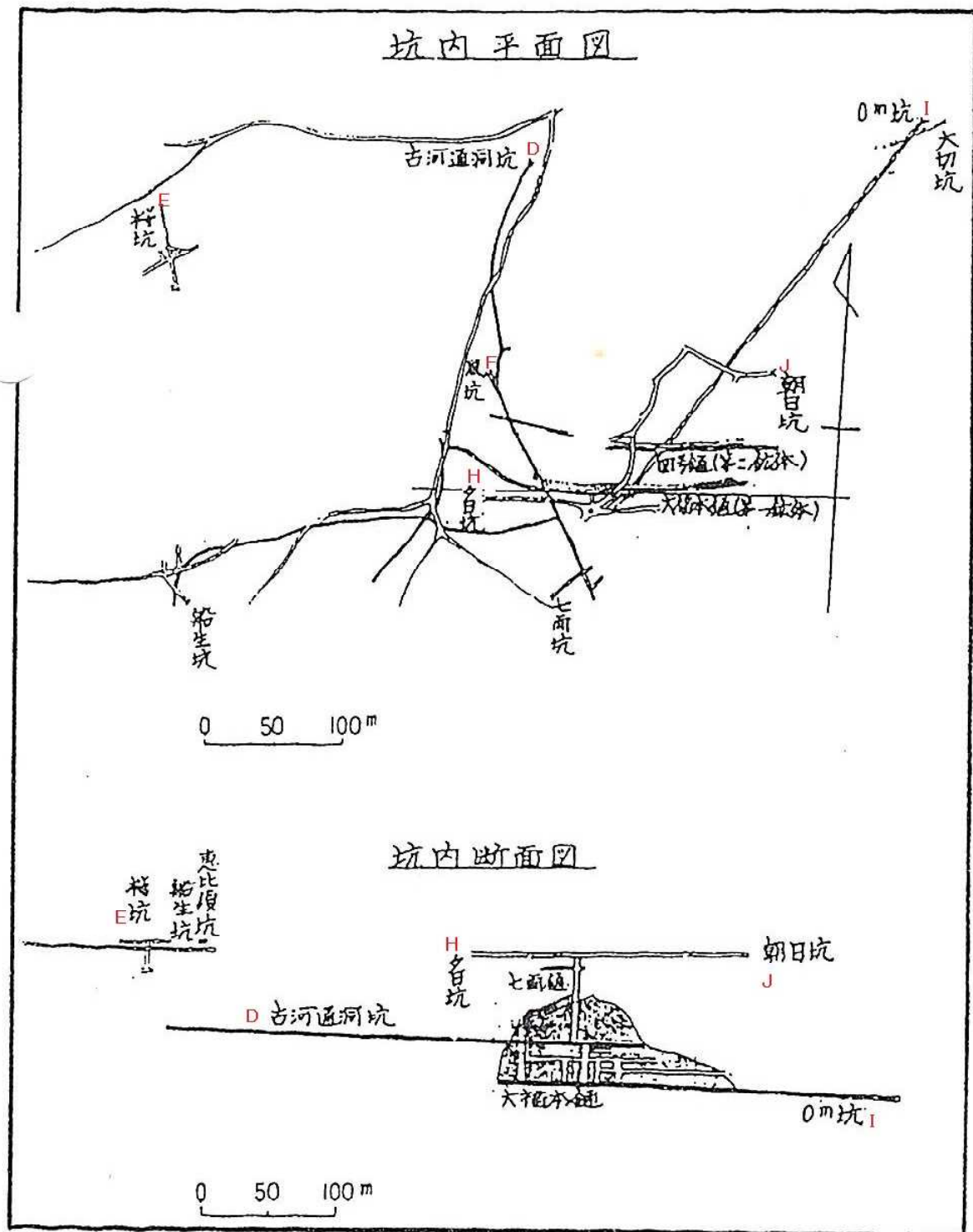


図14-2 寺島鉾山坑内平断面図

図5 参考文献(2)より複写掲載。坑内平面図中に、繰り返した探査で推断した位置関係を図3と対照して赤色文字で記している。

鉾山跡写真



写真1 駐車したP点付近の様子。前方から右下に沢。下るとD点に行き着く。左側へと沢を少し登っていくと、右岸に坑口跡のあるF点となる。



写真2 D点近傍で、上流を見ての一樣。立て札の立っているところの足元の石垣組の先には坑口跡があったと判断。現在では完全に埋もれている。「古河通洞坑跡」と推断。



写真3 D点で、下流方向の右手を見ている。沢の右岸、林道下には非常に広いプラトーがある。赤線ループがその面。鉾山施設跡であったと推断した。



写真4 D点近傍にあった露頭鉾脈。赤線分で示している。下流を向いて撮っている。



写真5 その近接写真。中央部分左右に渡っている「岩相」は上下の「岩相」と全く違うのがわかってる。



写真8 F点での入口がふさがっている坑口跡。赤輪のところ。「風(?)坑」と推断した。



写真9 坑口らしいところの左側の黒い部分にカメラを入れての内部の様子。ズッと奥まで延びている。



写真10 E点の所。林道から坑口跡を見る。赤輪のところに坑口跡。「桜坑」と判断した。



写真 1 1 そこに近接。赤輪の黒い部分が坑口跡。



写真 1 2 入口よりカメラを入れて内部を見る。非常に綺麗な坑道である。床に坑内水が貯まっているが、入口の土砂を取り除けば、排水ができそうである。



写真 1 3 写真 1 1 で示している坑口跡に向かって右側の斜面を少し登り上がる。写真 1 1 に赤色矢印でそれを示している。岩友が立っている少し先。

写真 1 4 その坑口近傍での入口の様子。

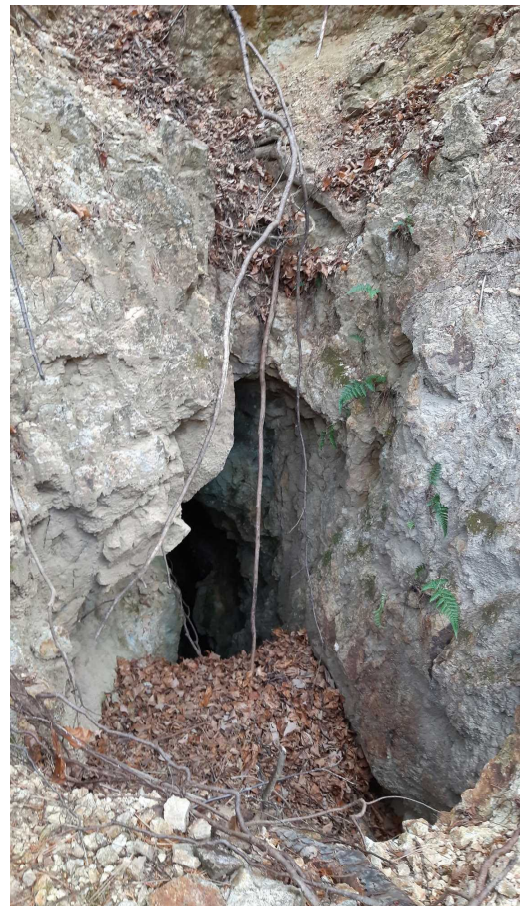




写真 1 5 G 点付近。沢の左岸にあった坑口跡



写真 1 6 その内部の様子。



写真 1 7 G 点付近の右岸にあった坑口跡の 1 つ。3 つ連続した坑口跡のうちの最下流部。入口は完全に崩壊している。



写真 1 8 3 つのうちの中間に位置している坑口跡。中央の黒い部分。坑口というよりは、坑道の陥没でできたものと推断する。



写真 1 9 それを穴の入口から見た内部の様。



写真 2 0 最上流部の坑口跡。岸壁の下部の黒い部分。



写真 2 1 その入口から見た内部の様。これら並列した 3 つの坑口の 1 つが「夕日坑」と思われる。



写真 2 2 西荒川近傍の I 点付近で確認した 2 つの坑口跡の内の下流側の坑口跡。



写真23 その入口に近接しての一葉。ほぼ水没している。図5と対照して「大切坑」と判断。



写真24 「大切坑」の少し上流側で確認した坑口跡。中央の岩友の立っている黒い部分。図5の鉱山図と対照して「0m坑」と判断。



写真25 それを入口から内部を覗く。I点には近傍の林道に車を停車させ、歩いて西荒川河床まで下った。図3の経路ログを参照。その後、2つの坑口跡を確認後、斜面を直登し林道に戻った。結果論であるが、I点付近と上部にある林道の間は斜面は絶壁に近い程の急斜面である。従って、I点へはD点又はプラトー当たりから沢なりに下ることを勧める。図3に赤矢印曲線でそれを示している。



写真26 林道から尾根に沿って登り上がり、潰れた坑口跡らしい箇所を確認した赤輪の箇所。J点である。右上方の赤輪の付近は広いプラトーになっている。図5の鉱山図と対照して「朝日坑」と推断した。

参考文献

(2)「日本金山誌 第4編 関東・中部」、社団法人資源・素材学会、1994年。

(50) 寺島(てらしま) 鉾山跡

栃木県塩谷地区にある。参考文献(1)によれば、「栃木県塩谷郡塩谷町にあり、玉船、白金鉾山の北に隣接し、石英斑岩、流紋岩中に存在する。含金石英脈で、これに閃亜鉛鉱、方鉛鉱を伴う。また少量の黄銅鉱、黄鉄鉱を随伴している。」

玉生地区から、上寺島に向かって、道路を北上する。下寺島にある三叉路を左に進み、上寺島方向に行く。道上高く、送電線が左右に渡っている。その先に橋がある。この橋の所で、左の道に入っていく。直ぐに、西荒川を渡って、林道を先へと進む。林道は広くなだらかな道である。地形図中の赤丸の当りで、車は自由に駐車できよう。赤丸のところが鉾山跡らしい箇所である。車を降りて、沢の下へと降りていく。以下後掲の写真で、鉾山跡などの説明をしている。地形図中の緑丸は多分潰れた坑口跡と判断した箇所である。ズリ跡らしいところで短時間採集をした。比較的重い子供の手の平大の小石を見つけた。ハンマーで裂いてみると、劈開面から黄銅鉱らしい金色の鉱物、方鉛鉱らしい金属光沢のある黒い結晶、石肌には銅の2次鉱物らしい薄青色の膜状鉱物を見ることができた。その他石英中に小さな方鉛鉱の結晶のある物も採集できた。時間をかければ、良い鉾石を見つけられそうである



赤丸の箇所が鉾山施設有ったらしい平坦部。緑丸は潰れた坑口らしい箇所。

地図 国土地理院 2万5千分の1 地形図「玉生」

探査日 2010年3月、その他の日

参考文献

(1)「日本地方鉱床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。

鉾山跡写真



林道から降りてくると、平坦な場所に立てる。鉾山事業所跡なのかも知れない。



上の写真の箇所を前方に進んで行く。ズリ跡らしい箇所がある。その場所を沢の方に降りて、平坦な箇所を向いて撮影。



平坦な箇所当りの沢から、沢の上流を見る。中央の先当りに、「潰れた坑口跡」らしい箇所がある。



潰れた坑口跡らしい箇所。この箇所から水を採集しているようである。右側に石垣がある。



中央に石垣があり、その上に水ホースがある。近づくと水の流れる音を聞くことができる。

採集鉱物写真

それほどでもない採集品なのだが、参考のため写真を掲載しておく。短時間であったが、簡単に採集することができた。次回には、じっくりと時間をかけて採集することとする。



黄銅鉱らしい金色の鉱物、方鉛鉱らしい金属光沢のある黒い結晶、石肌には銅の2次鉱物らしい薄青色の膜状鉱物を見ることができる。

追記

2010年12月に、再探査を行った。この鉱山の北北西に釜ノ沢鉱山がある。この鉱山の再探査を行ったが、何も得られなかった。林道を釜ノ沢鉱山を目指して、歩いていった途中に、坑口跡を見つけたも付けた。以下の地形図中に追記している。

鎌ノ沢鉱山へは、本探査記の「釜ノ沢鉱山」の項で紹介している地形図と対比させると直ぐわかるが、この林道を先に進み、釜ノ沢鉱山跡のあるあたりで、林道から尾根を下ると、直ぐに簡単に鉱山の上部施設跡に行き着ける。



赤丸の箇所が鉱山施設有ったらしい平坦部。緑丸は潰れた坑口らしい箇所。林道脇に1つの坑口跡を見つけた。

地図 国土地理院2万5千分の1地形図「玉生」
再探査 2010年12月